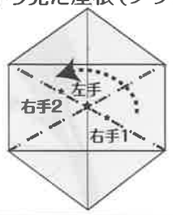
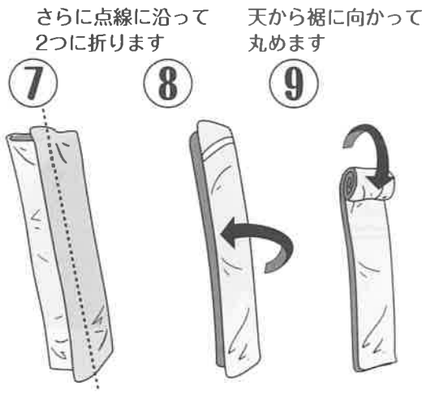
屋根（フライシート）をたたむ

屋根をたたむ前に
①ペグを抜きます
②四隅裾のバックルをはずします
③張り綱ループ裏の面ファスナーをはずします。



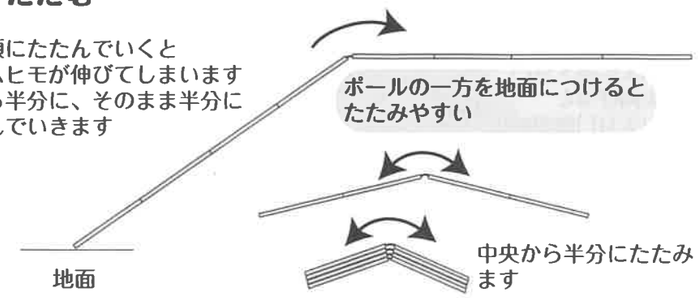
図の用に屋根の頂上部分を左手で持ち、右手でその直線上を2カ所持ちます

風下を向いて作業をするとたたみやすい

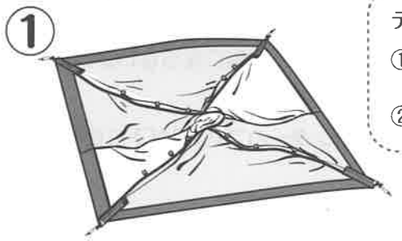


ポールたたむ

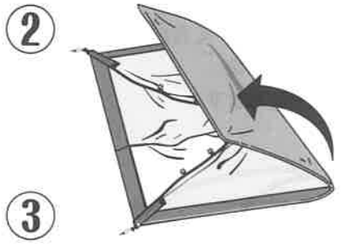
端から順にたたんでいくと
中のゴムヒモが伸びてしまいます
中央から半分に、そのまま半分に
とたたんでいきます

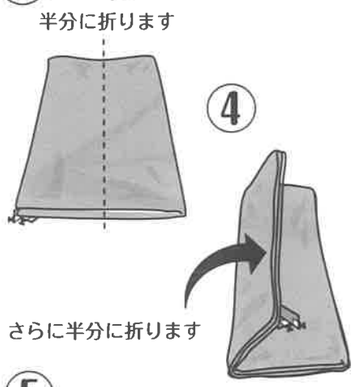


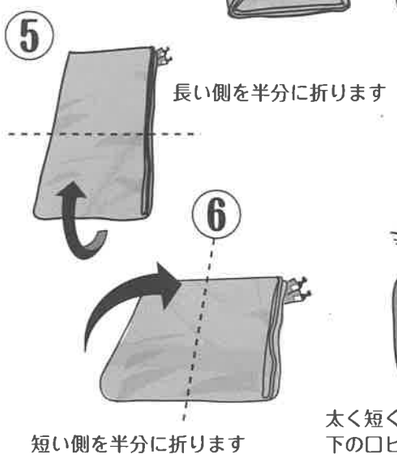
テント本体をたたむ

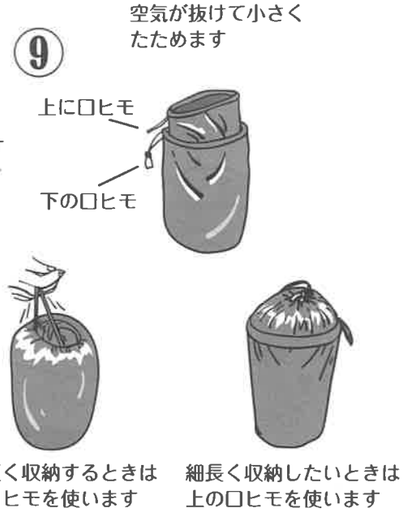


テント本体をたたむ前に
①出入り口の縦ファスナーを
全部閉めます
②ペグをぬきます









DUNLOP 登山用テント VS10・VS20・VS20T・VS30・VS40・VS50 取り扱い説明書

テントは野営（屋外での宿泊）で快適に睡眠をとれることを目的として設計されています。設計の前提になっているのは以下のとおりです。

1. 使用人数
VS10は1人用、VS20・VS20Tは2人用、VS30は3人用、VS40は4人用、VS50は5人用として設計されています。それを上回る人数で使用すると、相対的に通気量が不足し窒息することがあります。

2. 天候
・強風　風速が15m/秒を超えると破損することがあります。

・豪雨　連続雨量100mm/時、または時間雨量25mm／時を超える豪雨では雨漏りすることがあります。

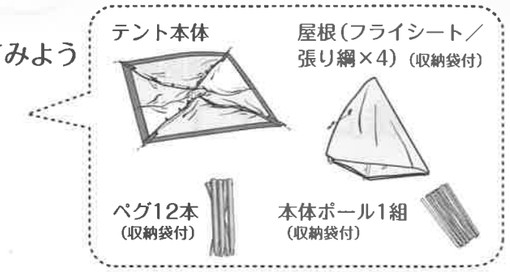
・雪　積雪でテント裾の隙間が埋まると、通気量が不足します。
過去には降雪による窒息事故も起きています。積雪のおそれがある場合は、別売りのテントカバー（外張）を使います。

・耐用年数　合成樹脂や合成繊維は保管状況により劣化の進行具合に差が出ます。
シーズオフには各部点検をして、問題があれば販売店に相談する必要があります。
金属部品は時効硬化します。通常の使用状況での最大耐用年数は20年ほどです。

3. 設営場所
天場で設営することを基本に設計しています。
・地面：テントを設営する地面としては、水平で平坦な所が適してます。
凹凸のある所は寝心地が悪いだけでなく、設計したテントが設計通りの形にならないことがあります。
・地形：雨水の通り道になる所（谷状の地形）、雨水がたまる所（くぼみ地）に設営すると、テント内に浸水します。また、風の弱い所を選ぶことも大切です。日差しが強すぎる所では、日中にテント内が高温になります。（夏期にはしばしば70℃を超えます）。

4.テント内での火器使用
小型の火器を使用しても通気量が不足することはありませんが、たいへん危険です。通気の確保、火災時の避難経路などをあらかじめ確認することが必要です。また、火器の取り扱い説明書をよく読み、注意事項をしっかり認識し厳守します。

収納袋の中身を見てみよう



テント各部分の説明

テント本体（壁と土台）
インナーテントとも呼びます。四隅を地面に固定して使用します。
また、柱（ポール）を固定する仕組みを持っています。

屋根
フラシートとも呼びます。テント本体の上にかぶせて雨や風、直射日光からテント本体を守ります。

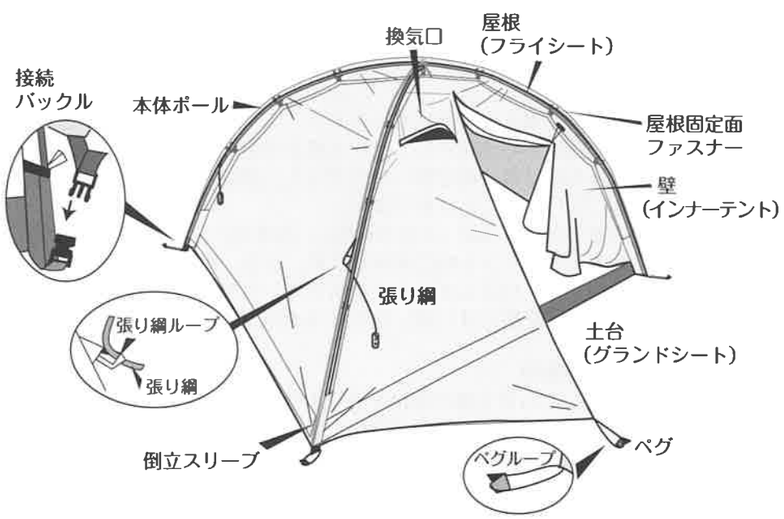
柱
ポールとも呼びます。ゴムヒモの繋ぎ通りに組み立てます。テント本体に取り付けて使用します。

ペグ
テントや張り綱を地面に固定する杭です。

張り綱
主に、風の強いときにテントを安定させるために使用します。一方の端をフライシートに結びつけ、もう一方の端をペグで地面に固定します。

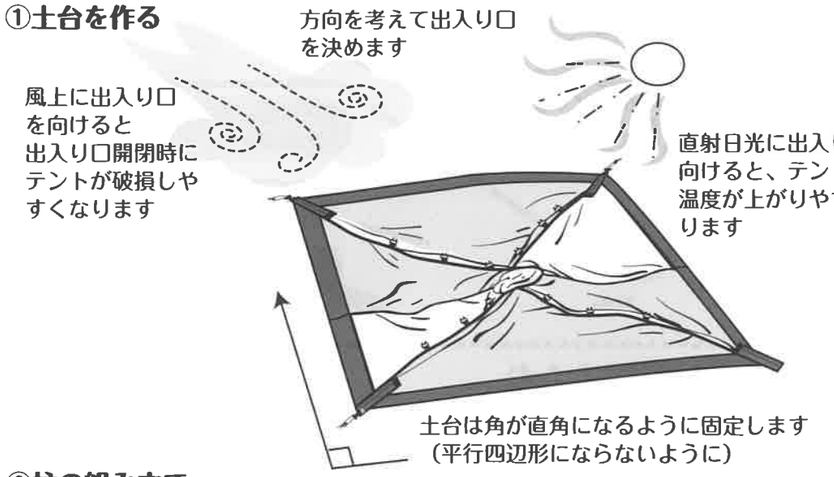
テント使用中に起きた過去の事故例

＊崖の直下に設営、長雨で崖崩れが発生。また、落石や野生動物が落下してくる危険もあります。
＊河原で設営、上流部の集中豪雨で急激に水増し、野営中の人々がテントごと流されました。また、海岸や湖畔（特に人造湖）なども水位の変化により浸水した事例があります。
＊開けた高地設営、落雷が直撃しました。
＊高圧線の直下で設営中、組み立て中の柱（ポール）が高圧線に接触し感電。
＊温泉地のくぼ地に設営、夜間に無風になり、毒ガス中毒が発生しました。
＊テント内で火器を使用、通気量不足により窒息。
また、火災の発生事例もあります。

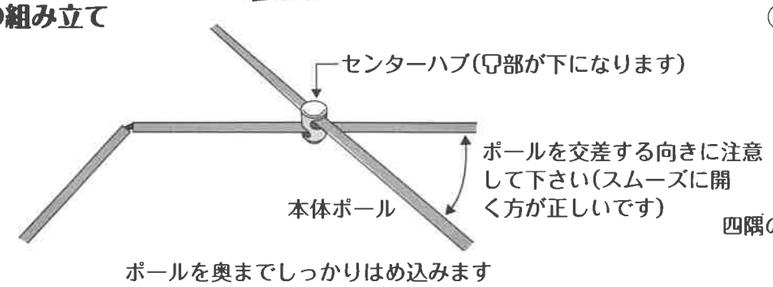


製造販売
株式会社 エイチシーエス
東京都中央区日本橋 2-3-19
TEL 03-5200-0770
FAX 03-5200-0771

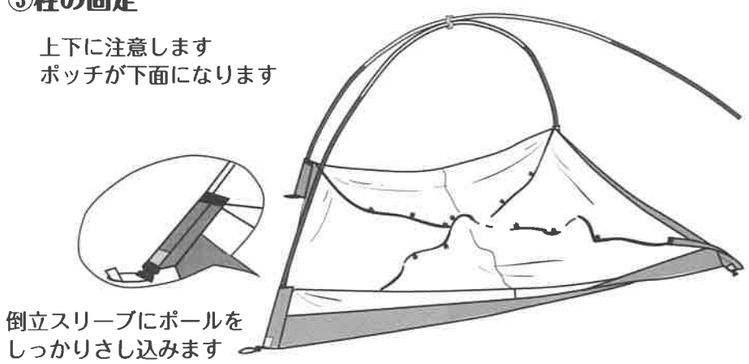
①土台を作る



②柱の組み立て



③柱の固定



④壁を立ち上げる

⑤屋根をつけるA

⑥屋根をつけるB

⑦風対策

どの方向から風が吹き出すかわからないときは
四方向に張り綱をとります

⑧強風対策

一定の方向から強い風が吹いているときは
風上側に張り綱をとります